

# まぐろから見える世界 ⑨

(社)責任あるまぐろ漁業推進機構専務 原田雄一郎

◆人質は600人超◆ 賊に拉致されたが、身代金が支払えず、いまだに拘束されている。ソマリア海賊は、略奪した船を母船に仕立て、その活動水域を、次第に拡大、ソマリア沿岸からはるか1500呎も離れたところで襲撃された船もあるようだ。また、身代金目当てに拉致、拘束している人質も、600人を超えていると言われている。セーシェルでも沿岸漁民が2人、海

業となっている。これまで、マグロ漁船は、この結果、海賊は、巻網漁船を襲わなくなつた。最近、マグロ延縄漁船も、ガードマンを乗船させるようになったという。現在セーシェル他2カ国のマグロ延縄漁船、約90隻に、ガードマン(3人1組)が、機関銃、自動小銃

ある国(もちろん、日本ではない)は、安全航行が脅かされる水域での武装ガードマンの乗船を認めるように法令の修正を検討していると聞いた。

## 俊敏にダイナミックに乗り切る

### ソマリア海賊問題

### 外国漁業者のバイタリティーに敬服

◆武装ガードマンを乗船◆ 先日、来日したセーシエルの関係者に聞いたところ、ソマリアには、海賊グループが、現在20もあり、海賊は、3500人。確たる事

海賊の襲撃を避けたために、インド洋から退避する他に策はなかつたが、最近、状況が変わってきた。巻網漁船は、いち早く、武装したガードマンを乗船させ、海賊を、銃撃、撃退するようになった。

海賊の襲撃を避けたために、インド洋から退避する他に策はなかつたが、最近、状況が変わってきた。巻網漁船は、いち早く、武装したガードマンを乗船させ、海賊を、銃撃、撃退するようになった。

最近、マグロ延縄漁船が3隻襲撃されたが、いずれも海賊を撃退し無事だったという。武器を携行した者を漁船に乗せることは、どの国も認めていないようだが、セーシェルは法令を既に改正、また、

最近、マグロ延縄漁船が3隻襲撃されたが、いずれも海賊を撃退し無事だったという。武器を携行した者を漁船に乗せることは、どの国も認めていないようだが、セーシェルは法令を既に改正、また、

らし、また、その斡旋(あつせん)のためのニュービジネスを生んでいるのも皮肉な話だが、この数年、操業が行われていなかったインド洋漁場で、マグロ資源が回復し、大型の良質のメバチマグロが

豊漁だという、これも海賊のもたらした現象だ。実際、早速、インド洋へ移動する外国のマグロ延縄漁船が増えている。

◆根の深い海賊問題◆ ソマリア海賊が生まれた原因は、先進国がソマリア沖で産業廃棄物を投棄しその結果、海洋汚染が生じ、人的被害をもたらしたことや、不法漁獲による不漁で、これを阻止するためのソマリア沿岸漁民の自衛策が高じたものだとも言われている。ソマリアの人々の抱える長年の痛みは計り知れないが、海賊問題の根は深く解決は容易ではないだろう。それにしても、海賊問題への対応ぶりを見て



先日、来日したセーシエルの関係者に聞いたところ、ソマリアには、海賊グループが、現在20もあり、海賊は、3500人。確たる事

海賊の襲撃を避けたために、インド洋から退避する他に策はなかつたが、最近、状況が変わってきた。巻網漁船は、いち早く、武装したガードマンを乗船させ、海賊を、銃撃、撃退するようになった。

最近、マグロ延縄漁船が3隻襲撃されたが、いずれも海賊を撃退し無事だったという。武器を携行した者を漁船に乗せることは、どの国も認めていないようだが、セーシェルは法令を既に改正、また、

最近、マグロ延縄漁船が3隻襲撃されたが、いずれも海賊を撃退し無事だったという。武器を携行した者を漁船に乗せることは、どの国も認めていないようだが、セーシェルは法令を既に改正、また、

らし、また、その斡旋(あつせん)のためのニュービジネスを生んでいるのも皮肉な話だが、この数年、操業が行われていなかったインド洋漁場で、マグロ資源が回復し、大型の良質のメバチマグロが

豊漁だという、これも海賊のもたらした現象だ。実際、早速、インド洋へ移動する外国のマグロ延縄漁船が増えている。

◆根の深い海賊問題◆ ソマリア海賊が生まれた原因は、先進国がソマリア沖で産業廃棄物を投棄しその結果、海洋汚染が生じ、人的被害をもたらしたことや、不法漁獲による不漁で、これを阻止するためのソマリア沿岸漁民の自衛策が高じたものだとも言われている。ソマリアの人々の抱える長年の痛みは計り知れないが、海賊問題の根は深く解決は容易ではないだろう。それにしても、海賊問題への対応ぶりを見て

(毎月1回掲載)